

2025年1月29日

やまぎん企業景況サーベイ

(2024年10-12月)

～二極化含みながら景況感は1年ぶりに「良化超」に改善～

「やまぎん企業景況サーベイ」は、企業の景況感を明らかにすることを目的に、山形県内に本社および事業所を有する企業を対象として四半期ごとに実施している調査です。

【調査要領】

対象期間 2024年10-12月
調査期間 2024年11月1日～25日
有効回答数 491社/600社（回答率 81.8%）

【調査方法】

山形銀行本支店を通じアンケート用紙を配布・回収、もしくはオンライン回答による。

【集計・分析方法】

県内企業の業況、生産・販売等の状況は、「BSI (Business Survey Index)」を用いて表します。

①業況判断 BSI <前年同期比>

前年(2023年10-12月)に比べ業況が「良化する」企業の割合 - 「悪化する」企業の割合

②売上高 BSI <前年同期比>

前年(2023年10-12月)に比べ売上高が「増加する」企業の割合 - 「減少する」企業の割合

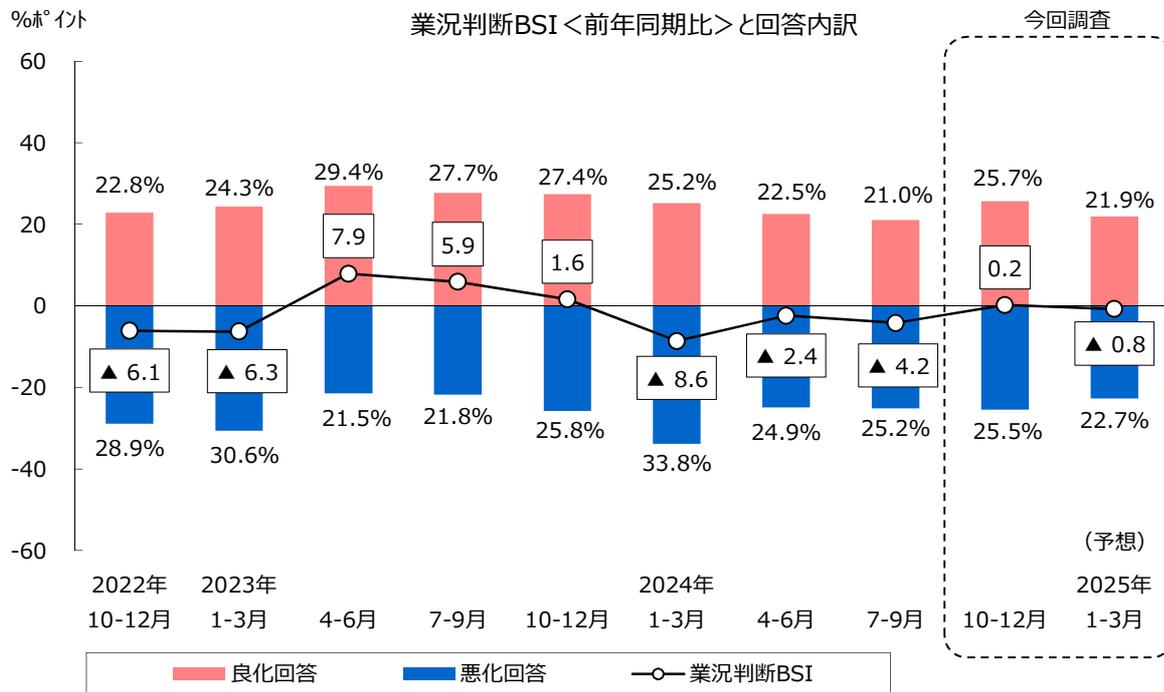
③雇用判断 BSI

従業員数の水準について「多い」とする企業の割合 - 「少ない」とする企業の割合

やまぎん情報開発研究所
(山形銀行 営業支援部)

1. 業況判断 B S I <前年同期比>

～製造業を中心に上昇し、1年ぶりに「良化超」に転じる～



(1) 全産業ベースの動向

業況判断 BSI <前年同期比> <前年同期 (2023年 10-12月) に比べ業況が「良化する」企業の割合-「悪化する」企業の割合>は、前回調査(2024年 7-9月)に比べて+4.4ポイントの0.2となった。2期ぶりの上昇で、水準としては1年(4期)ぶりに「良化超」に転じた。

回答内訳をみると、悪化回答の割合は25.5%で、前回調査(25.2%)からわずかに上昇しているが、良化回答の割合がより大きく上昇し、25.7%と1年ぶりの高い割合になった。製造業を中心に、半導体関連需要の持ち直し等をうけて、前年比では業況が好転したとする企業が増えた半面、非製造業を中心に、仕入価格の上昇に伴う再値上げ等による悪影響がみられる企業もあり、二極化含みとなっている。

こうしたなか、2025年 1-3月の予想は、今

回調査比-1.0ポイントの▲0.8で、製造業の改善が続く半面、非製造業の悪化を主因に、全体でも「悪化超」に転じる見込みである。

(2) 業種別の動向

以下では、業種別の BSI 水準に応じて下表のような天気マークを用いて表現した。

BSIの値	マーク
50以上	晴れ
15以上50未満	曇り一部晴れ
▲15超15未満	曇り
▲50超▲15以下	曇り一部雨
▲50以下	雨

業種	時期	業況判断BSI<前年同期比>					(予想)			
		2023年 7-9月	2023年 10-12月	2024年 1-3月	2024年 4-6月	2024年 7-9月	2024年 10-12月	前回比	2025年 1-3月	今回比
全産業		5.9	1.6	▲8.6	▲2.4	▲4.2	0.2	+4.4	▲0.8	-1.0

① 製造業

業況判断 BSI<前年同期比>を業種別にみると、製造業は前环比+10.0 ポイントの 5.6 で、3 期連続の上昇となっている。「良化超」となるのは 2023 年 7-9 月以来 5 期ぶり、前回調査における予想(7.4)は下回ったものの、足もとで改善の動きが強まっている。

食料品・飲料 猛暑の影響による国産材料の調達難等もあって、原材料等のコスト上昇が再び重しとなっており、BSIは再び低下。

繊維・衣服 夏物の受注が比較的安定しているとする企業が増え、BSIは3期ぶりに上昇した。

木材・家具 家具を中心に、価格転嫁による収益増が見込まれ、BSIは3期連続の上昇で4期ぶりに「良化超」に転じた。

窯業・土石 公共工事の発注ペースの鈍化等を

うけて、BSIは8期ぶりに「悪化超」に転じた。

鉄鋼・金属 半導体関連を含む製造ライン向け製品の受注が好調で、BSIは7期ぶりに「良化超」の水準まで上昇した。

電気機械 電子部品の受注は弱い状況が続いているが、材料高の一服から配電盤等が持ち直し、BSIは11期ぶりに「良化超」に転じた。

一般機械 半導体製造装置関連の受注等が引き続き持ち直しており、BSIは4期連続で上昇し、全業種中最も高水準となった。

輸送機械 自動車メーカーの認証不正問題や、海外向けの不振などから、BSIは2期連続の大幅低下で、全業種中最も低水準となった。

その他製造業 プラスチック製品や精密機械などを中心にBSIが上昇し、4期ぶりに「良化超」に転じた。

業種別の業況判断BSI<前年同期比>

(予想)

業種	時期	2023年					2024年		2025年	
		7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	前环比	1-3月	今回比
製造業		 3.1	 ▲ 1.4	 ▲ 11.3	 ▲ 4.7	 ▲ 4.4	 5.6	 +10.0	 6.0	 +0.4
食料品・飲料		 16.7	 10.0	 0.0	 0.0	 10.3	 0.0	 -10.3	 2.7	 +2.7
繊維・衣服		 64.3	 33.4	 46.7	 20.0	 ▲ 14.3	 0.0	 +14.3	 ▲ 14.3	 -14.3
木材・家具		 ▲ 20.0	 53.4	 ▲ 46.1	 ▲ 26.7	 ▲ 7.7	 9.1	 +16.8	 18.2	 +9.1
窯業・土石		 44.4	 30.0	 0.0	 0.0	 0.0	 ▲ 55.6	 -55.6	 ▲ 11.1	 +44.5
鉄鋼・金属		 ▲ 20.0	 ▲ 42.9	 ▲ 26.1	 ▲ 4.8	 ▲ 15.0	 14.3	 +29.3	 19.1	 +4.8
電気機械		 ▲ 7.4	 ▲ 20.7	 ▲ 20.7	 ▲ 12.0	 ▲ 30.7	 3.3	 +34.0	 10.0	 +6.7
一般機械		 ▲ 28.6	 ▲ 38.1	 ▲ 25.7	 ▲ 7.0	 15.9	 34.2	 +18.3	 13.1	 -21.1
輸送機械		 27.3	 18.2	 ▲ 25.0	 ▲ 15.4	 ▲ 41.7	 ▲ 60.0	 -18.3	 ▲ 30.0	 +30.0
その他製造業		 9.4	 17.7	 0.0	 0.0	 ▲ 3.3	 13.8	 +17.1	 10.4	 -3.4

2025年1-3月の予想については、今回調査比+0.4ポイントの6.0で、4期連続の上昇が見込まれている。一般機械は低下予想となったが、今回調査で「良化超」に転じた電気機械などが引き続き上昇する予想となっている。

② 非製造業

非製造業の業況判断 BSI は、前回は+0.6 ポイントの▲3.4 となり、小幅ながら 2 期ぶりに上昇した。ほぼ前回調査における予想(▲3.3)どおりとなっているが、水準としては4期連続で「悪化超」とどまるなど、製造業に比べて前年比での改善の動きは弱いといえる。

建設業・不動産業 災害対応で受注増となる動きも一部にみられるものの、公共工事や住宅着工の減少などをうけて BSI は再び低下。

運輸業 価格改定による増収を主要因として、BSI は 2 期ぶりに上昇し、非製造業のなかでは最も高水準となった。

卸売業 BSI は 7 期ぶりに上昇に転じたものの、仕入価格の高止まりが続くなかで、5 期連続で「悪化超」となっている。

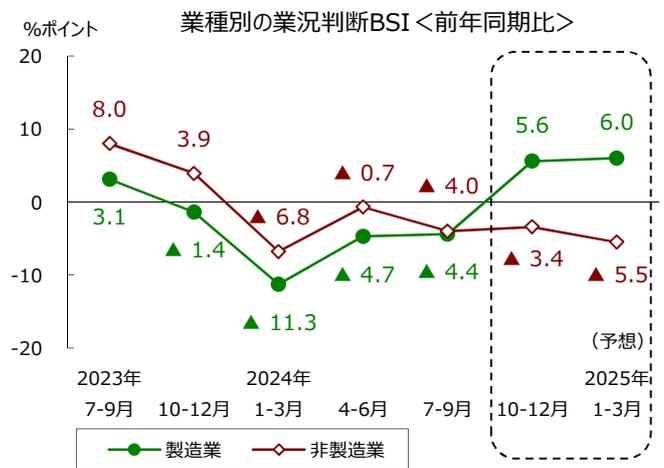
小売業 スーパーや燃料小売などを中心に

BSI は 2 期ぶりに低下し、BSI は 5 期ぶりに「悪化超」に転じている。

旅館・ホテル, 飲食業 価格改定に加え、冬季に入り一段とインバウンドの増加がみられたことなどもあり、BSI は再び「良化超」に転じた。

サービス業・その他 法人需要の持ち直しなどをうけて、BSI の水準は依然「悪化超」ながら 2 期ぶりに上昇した。

2025年1-3月の予想については、今回調査比-2.1 ポイントの▲5.5 と再び低下する見込み。引き続き改善を見込む製造業との BSI の差がさらに拡大する予想になっている。



業種別の業況判断BSI <前年同期比>

(予想)

業種	2023年		2024年			前回は	2025年 (予想)		
	7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月		10-12月	1-3月	
非製造業	8.0	3.9	▲ 6.8	▲ 0.7	▲ 4.0	▲ 3.4	+0.6	▲ 5.5	-2.1
建設業・不動産業	10.1	2.3	▲ 22.2	▲ 7.6	▲ 7.2	▲ 9.9	-2.7	▲ 12.4	-2.5
運輸業	35.3	35.3	0.0	28.6	20.0	31.6	+11.6	21.1	-10.5
卸売業	1.5	▲ 4.5	▲ 12.5	▲ 12.9	▲ 12.9	▲ 10.0	+2.9	▲ 13.3	-3.3
小売業	▲ 2.3	10.4	3.7	1.9	12.0	▲ 2.0	-14.0	0.0	+2.0
旅館・ホテル, 飲食業	50.0	25.0	57.2	0.0	▲ 15.8	6.2	+22.0	18.7	+12.5
サービス業・その他	2.1	▲ 6.1	▲ 6.0	13.4	▲ 6.1	▲ 1.8	+4.3	▲ 7.2	-5.4

(3) 地区別の動向

業況判断BSI<前年同期比>を地区別にみると、置賜地区が8.5、北部地区が5.6、山形地区が▲2.9、西部地区が▲6.2、庄内地区が▲8.1の順になった。前回は3地区が上昇し、2地区が低下した。

地区別の内訳

地区	市町村
山形地区	山形市、上山市
置賜地区	米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町
西部地区	寒河江市、山辺町、中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町
北部地区	村山市、天童市、東根市、尾花沢市、大石田町、新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村
庄内地区	鶴岡市、酒田市、庄内町、三川町、遊佐町

① 山形地区

前回は+1.7ポイントの▲2.9で、依然「悪化超」ながら2期連続で上昇。食料品・飲料や一般機械を中心に、製造業の上昇が全体を押し上げている。

② 置賜地区

前回は+16.6ポイントの8.5となり、4期ぶりに「良化超」に転じた。製造業では電気機械、一般機械などの改善が目立ったほか、非製造業も総じて改善傾向となった。

③ 西部地区

前回は-6.2ポイントの▲6.2で、3期ぶりに低下。企業数の多い食料品・飲料を中心に製造業が悪化したことに加え、非製造業も小幅な悪化となった。

④ 北部地区

前回は+13.9ポイントの5.6で、大幅に上昇し6期ぶりに「良化超」に転じた。鉄鋼・金属や一般機械の改善により、製造業が10期ぶりに「良化超」に転じたことが大きい。

⑤ 庄内地区

前回は-10.3ポイントの▲8.1で、7期ぶりに「悪化超」に転じ、全地区中最も低水準となった。食料品・飲料製造業や小売業の悪化が目立っており、豪雨災害による農産物等への悪影響が反映されている可能性がある。

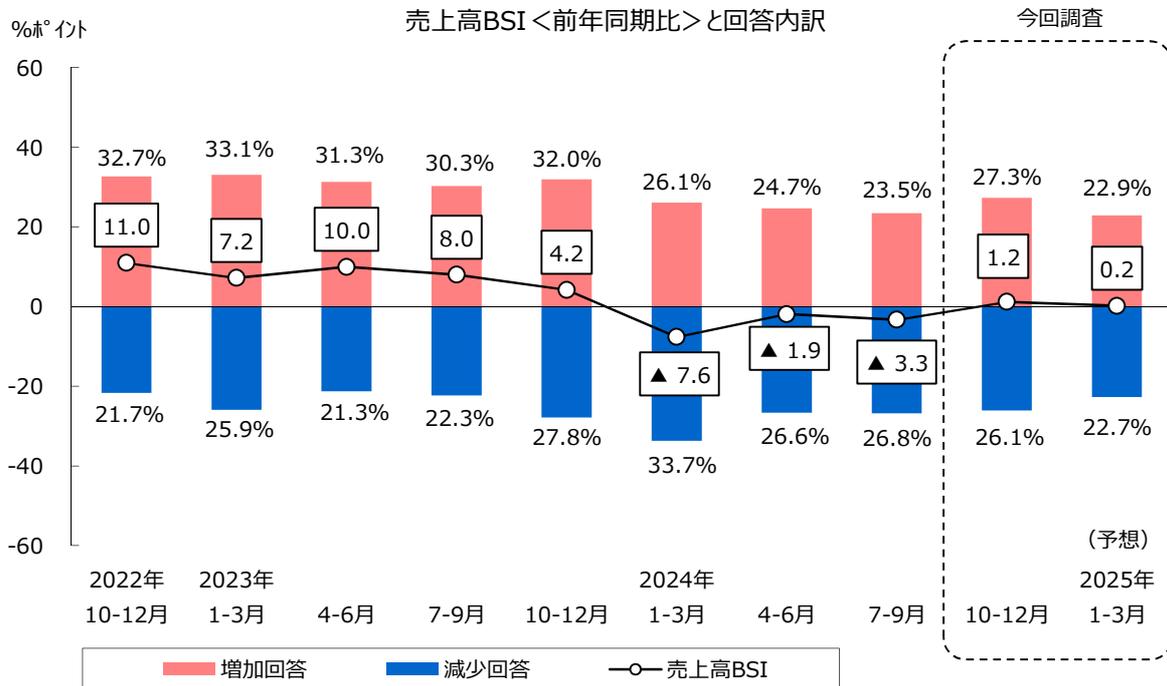
地区別の業況判断BSI<前年同期比>

(予想)

地区	時期	2023年					2024年		2025年	
		7-9月	10-12月	1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	前回は	1-3月	今回は
山形地区										
		8.3	0.6	▲ 4.7	▲ 5.4	▲ 4.6	▲ 2.9	+1.7	▲ 3.6	-0.7
		製造業	0.0	5.3	▲ 12.2	▲ 12.3	▲ 14.3	0.0	+14.3	2.4
	非製造業	12.3	▲ 1.8	▲ 1.0	▲ 2.1	0.0	▲ 3.9	-3.9	▲ 6.1	-2.2
置賜地区										
		8.7	8.9	▲ 13.2	▲ 2.9	▲ 8.1	8.5	+16.6	2.8	-5.7
		製造業	6.3	3.8	▲ 8.9	▲ 5.6	▲ 12.0	12.0	+24.0	8.0
	非製造業	11.4	14.6	▲ 17.4	0.0	▲ 4.1	5.3	+9.4	▲ 1.8	-7.1
西部地区										
		10.2	▲ 1.7	▲ 19.0	▲ 5.5	0.0	▲ 6.2	-6.2	▲ 6.1	+0.1
		製造業	14.8	0.0	▲ 20.6	▲ 13.4	3.4	▲ 7.7	-11.1	7.7
	非製造業	4.0	▲ 3.7	▲ 16.7	4.1	▲ 4.0	▲ 4.4	-0.4	▲ 21.7	-17.3
北部地区										
		▲ 2.3	▲ 11.4	▲ 13.6	▲ 2.0	▲ 8.3	5.6	+13.9	5.6	±0.0
		製造業	▲ 20.0	▲ 23.9	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 11.4	10.4	+21.8	4.2
	非製造業	13.1	2.4	▲ 3.8	2.1	▲ 4.9	1.7	+6.6	6.6	+4.9
庄内地区										
		3.7	10.7	1.1	4.7	2.2	▲ 8.1	-10.3	▲ 5.8	+2.3
		製造業	23.1	10.0	15.1	20.0	22.8	5.9	-16.9	8.9
	非製造業	▲ 5.4	11.1	▲ 6.9	▲ 3.6	▲ 10.2	▲ 17.3	-7.1	▲ 15.4	+1.9

2. 売上高BSI <前年同期比>

～製造業における売上高の増加を主因に、1年ぶりの「増加超」に～



(1) 全産業ベースの動向

売上高 BSI <前年同期比>は、前回調査に比べ+4.5 ポイントの 1.2 となった。業況判断 BSI と同様に 2 期ぶりに上昇し、小幅ではあるものの 1 年(4 期)ぶりに「増加超」に転じている。また、業況判断 BSI と売上高の BSI のギャップ(業況判断 BSI - 売上高 BSI)は▲1.0 で、2024 年以降は両者のギャップが非常に小さい状況が続いている。各種コストによる下押しが常態化するなかで、前年比では売上高と業況判断の連動性が再び強まっている。

2025 年 1-3 月の予想については、今回調査比-1.0 ポイントの 0.2 で、小幅ながら「増加超」を維持する見込みとなっている。

(2) 業種別の動向

業種別に売上高 BSI をみると、製造業は前回比+12.8 ポイントの 8.0 と大きく上昇したものの、非製造業は同-1.2 ポイントの▲3.4 で、異なる方向感を示した。

① 製造業

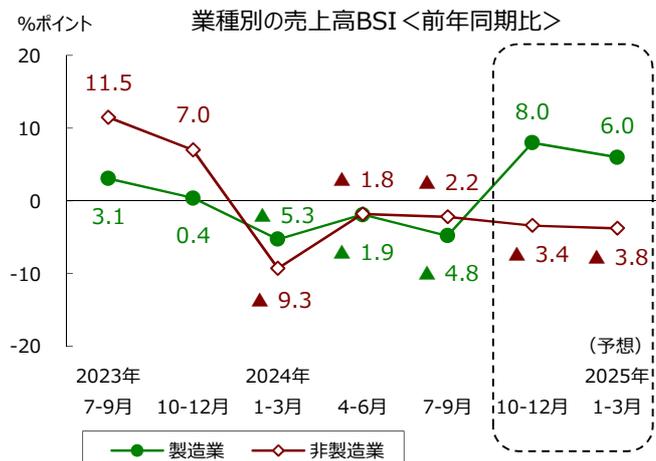
前回比では 9 業種中 6 業種が上昇。繊維・衣

服については、業況判断 BSI は上昇し「良化超」となったものの、生産減により売上高 BSI は低下し「減少超」となる動きがみられた。

② 非製造業

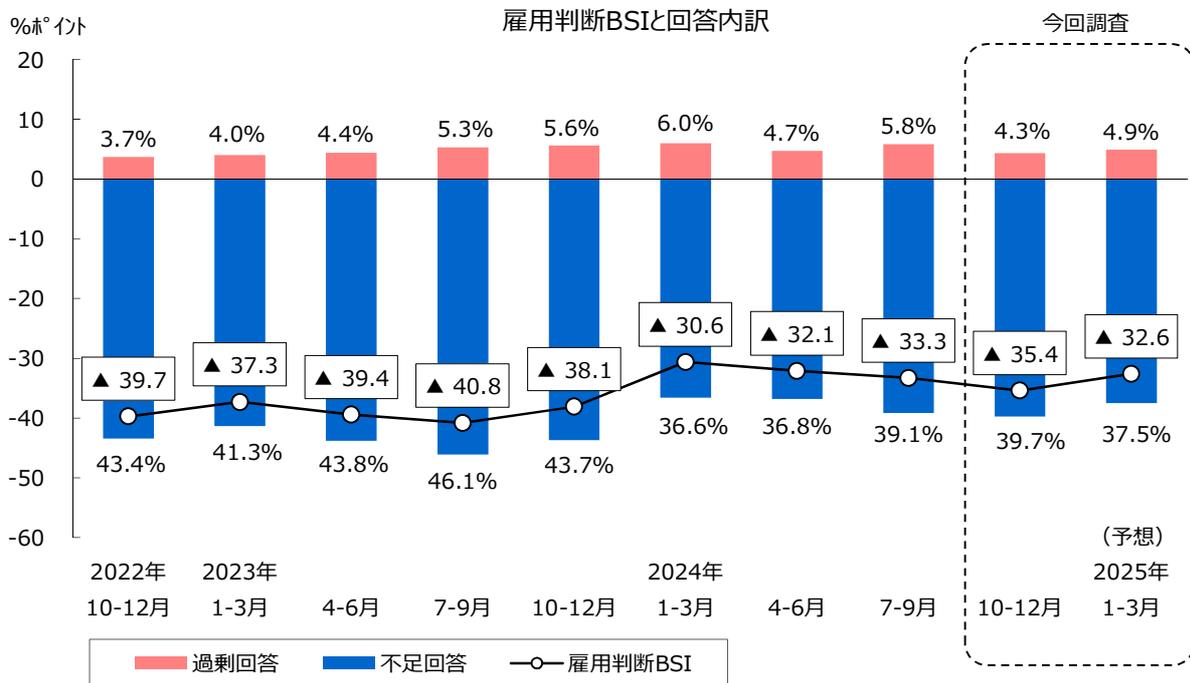
前回比では 6 業種のうち上昇と低下が 3 業種ずつとなった。小売業とサービス業・その他は、値上がりによる消費不振等をうけて低下し、「減少超」の水準に転じている。

2025 年 1-3 月の予想は、製造業が今回調査比-2.0 ポイントの 6.0、非製造業は同-0.4 ポイントの▲3.8 となる見込み。



3. 雇用判断BSI

～業況改善に伴う人手不足感の高まりから、3期連続の低下～



(1) 全産業ベースの動向

従業員数の水準（パート・アルバイト等を含む）については、「多い」とする企業の割合が4.3%、「適正」が56.0%、「少ない」が39.7%となり、雇用判断BSIは前环比-2.1ポイントの▲35.4となった。3期連続の低下で、再び人手不足感が増している状況がうかがえるものの、2022年や2023年の雇用判断BSIの水準に比べれば、依然としてやや高めの水準が続いている。

こうしたなか、2025年1-3月の予想は、今回調査比+2.8ポイントの▲32.6で、再び上昇する見込みとなっている。

(2) 業種別の動向

業種別にみると、製造業は前环比-4.3ポイントの▲22.1で、やや高めながら2期ぶりに低下。一方、非製造業は同+0.2ポイントの▲44.6で横ばいに近い動きとなった。

① 製造業

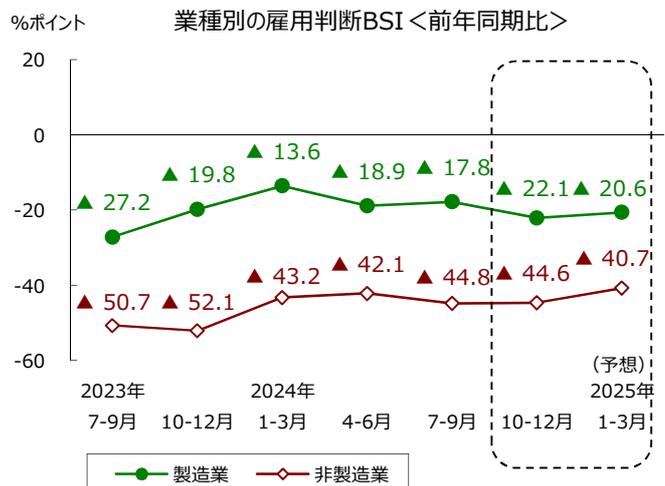
前环比では9業種のうち上昇と低下が4業種ずつとなり、1業種が横ばいとなった。電気機械

が業況改善とともに再び「不足超」に転じたほか、一般機械や木材・家具の低下も目立った。

② 非製造業

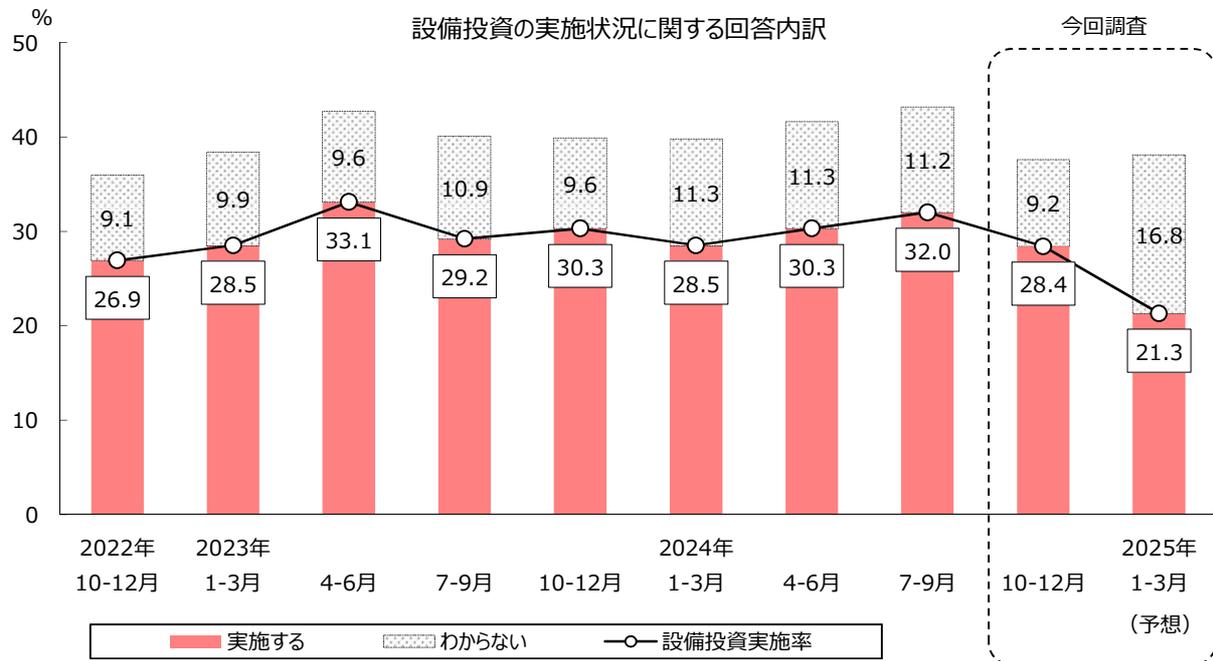
前环比では6業種のうち4業種が上昇し、2業種が低下。すべて「不足超」のマイナス水準となっているが、前环比の動きをみると、人手不足感が若干緩和し、かつ業況も改善した業種が複数みられた。

2025年1-3月の予想については、製造業が今回調査比+1.5ポイントの▲20.6、非製造業は同+3.9ポイントの▲40.7となる見込み。



4. 設備投資実施率

～高水準となった前期からの反動もあり低下～



(1) 全産業ベースの動向

2024年10-12月に生産・営業用設備への投資を実施するかどうかについてたずねたところ、「実施する」との回答割合(設備投資実施率)は前回比-3.6ポイントの28.4%となり、3期ぶりに低下した。2024年4-6月、7-9月と高水準での推移が続いたため、反動減の動きになったとみられるが、水準としては比較的底堅さを保ったまま推移している。

2025年1-3月の予想については、設備投資実施率は今回調査比-7.1ポイントの21.3%となる見込み。例年実施率が低下する時期でもあり、今回調査よりも低下する可能性が高い。

(2) 業種別の動向

業種別にみると、製造業は前回比+8.2ポイントの34.5%となった。急上昇した前回からは大きく低下したものの、底堅い水準を維持している。一方、非製造業は同+0.2ポイントの24.3%で、低水準のままほぼ横ばいとなった。

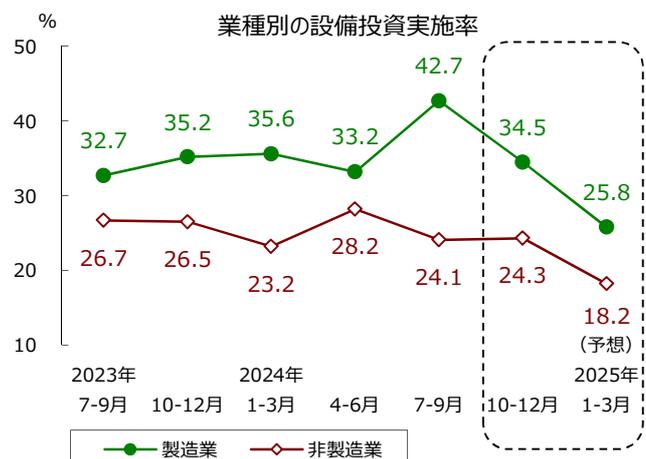
① 製造業

電気機械が50.0%で最も高い水準となり、次

いで繊維・衣服が46.2%、食料品・飲料が37.8%の順になった。50%以上となったのは電気機械のみで、前回比では設備投資実施率が低下した業種が9業種中7業種となった。

② 非製造業

運輸業が47.4%で最も高い水準となり、次いでサービス業・その他が39.3%、小売業が24.0%の順になった。前回比では6業種のうち上昇と低下が3業種ずつとなったが、50%以上となった業種はなく、製造業に比べ総じて低水準での推移が続いている。



5. 冬季賞与について

～底堅さを維持しつつも、前年比増加企業の割合は低下～

(1) 一人あたりの支給額

今冬の賞与(ボーナス)の支給状況についてきたところ、一人あたりの支給額については、前年に比べ「増加する」が19.4%、「前年並」が57.6%、「減少する」が14.3%、「支給なし」が8.8%となった。「支給なし」とする割合は小幅ながら低下が続いており、支給のすそ野の拡大が続いているとみられる。また、「減少する」とする割合は前年と同水準にとどまっております、総じて底堅さがみられる。一方で、「増加する」とする回答割合は、高水準となった前年に比べればやや低下し、これにかわって「前年並み」とする割合が上昇していることから、前年比での増勢はやや鈍化したものとみられる。

(2) 業種別の動向

① 製造業

製造業では「増加する」が19.1%、「前年並」が56.3%、「減少する」が17.6%、「支給なし」が7.0%となった。詳細業種別にみると、「増加する」の回答割合が昨冬よりも低下したのは9業種中6業種で、今年度前半における業況の停滞等が反映されたと考えられる。特に、木材・

業種別の冬季賞与の一人あたり支給額 (前年比)

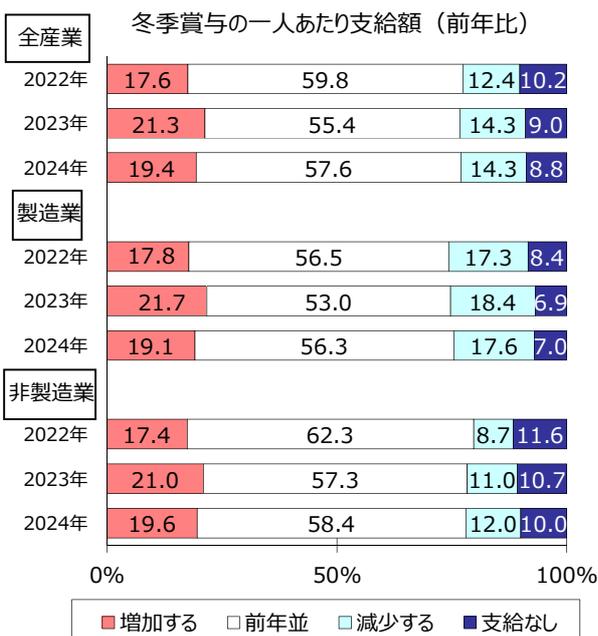
(単位: %)	増加する	前年並	減少する	支給なし
製造業	19.1 (-2.6)	56.3	17.6	7.0
食料品・飲料	24.3 (+4.3)	56.8	10.8	8.1
繊維・衣服	21.4 (-11.9)	42.9	21.4	14.3
木材・家具	0.0 (-26.7)	63.6	36.4	0.0
窯業・土石	22.2 (-17.8)	44.4	22.2	11.1
鉄鋼・金属	19.0 (+4.7)	52.4	19.0	9.5
電気機械	20.0 (-4.1)	60.0	20.0	0.0
一般機械	23.7 (+9.4)	60.5	13.2	2.6
輸送機械	0.0 (-27.3)	50.0	40.0	10.0
その他 製造業	17.2 (-3.4)	58.6	10.3	13.8
非製造業	19.6 (-1.4)	58.4	12.0	10.0
建設業・不動産業	19.8 (-0.2)	63.7	9.9	6.6
運輸業	21.1 (-14.2)	52.6	21.1	5.3
卸売業	23.7 (+1.3)	47.5	16.9	11.9
小売業	10.0 (-12.9)	66.0	12.0	12.0
旅館・ホテル、飲食業	31.3(+18.0)	37.5	0.0	31.3
サービス業・その他	19.6 (+3.3)	62.5	10.7	7.1

※()内は前年差。

家具と輸送機械については「増加する」の回答割合が大きく低下しゼロとなっている。一方、「増加する」の回答割合が昨冬よりも上昇したのは、食料品・飲料、鉄鋼・金属、一般機械の3業種であるが、鉄鋼・金属と一般機械は、「増加する」が上昇し、「減少する」+「支給なし」が低下しているのに対し、食料品・飲料は、「増加する」と「減少する」+「支給なし」がともに上昇する動きとなっており、二極化含みである様子がうかがえる。

② 非製造業

非製造業では「増加する」が19.6%、「前年並」が58.4%、「減少する」が12.0%、「支給なし」が10.0%となった。詳細業種別にみると、「増加する」の回答割合が昨冬よりも低下したのは6業種中3業種で、上昇も3業種とやや割れているが、比較的企業数の多い小売業で「増加する」が大きく低下し、全体を押し下げた。一方、「増加する」が大幅に上昇し全業種中最も高い割合となったのは旅館・ホテル、飲食業で、依然として「支給なし」が高い水準にあるなど、業種内での二極化を伴いながらも、観光需要の回復等が冬季賞与の増加につながっているものとみられる。



6. コスト上昇の影響

～価格転嫁が困難な企業が再び増加～

(1) コスト上昇の影響

2024年10-12月において、各種コスト上昇が業況に影響を与えているかどうかきいたところ、「大きなマイナスの影響がある」が31.2%、「ややマイナスの影響がある」が49.9%、「あまり影響はないが、これからマイナスの影響が出る可能性がある」が12.8%、「あまり影響はない」が6.1%となった。現在マイナスの影響があるとする割合(「大きなマイナス」+「ややマイナス」)は81.1%で、依然として8割を超える高い水準にあるものの、前回(82.4%)からは若干低下している。物価上昇が続くなかで、コスト高への対応が進みつつあることや、「酷暑乗り切り緊急支援」として再開された電気・ガス料金支援(2024年8月～10月使用分)によって、調査期間中の電気・ガス料金の請求金額が低下したことなどを反映したと考えられる。

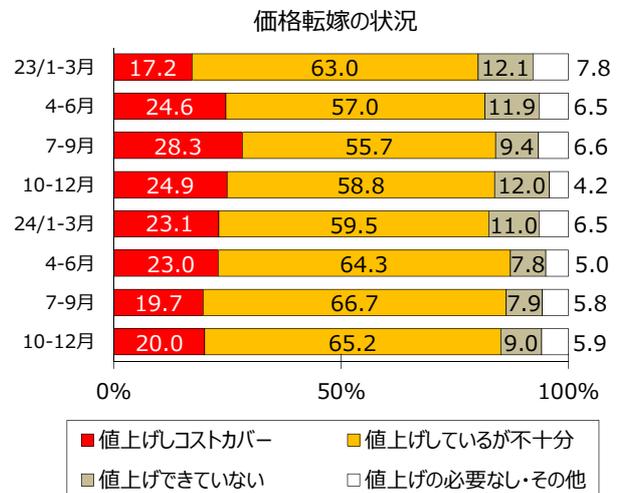
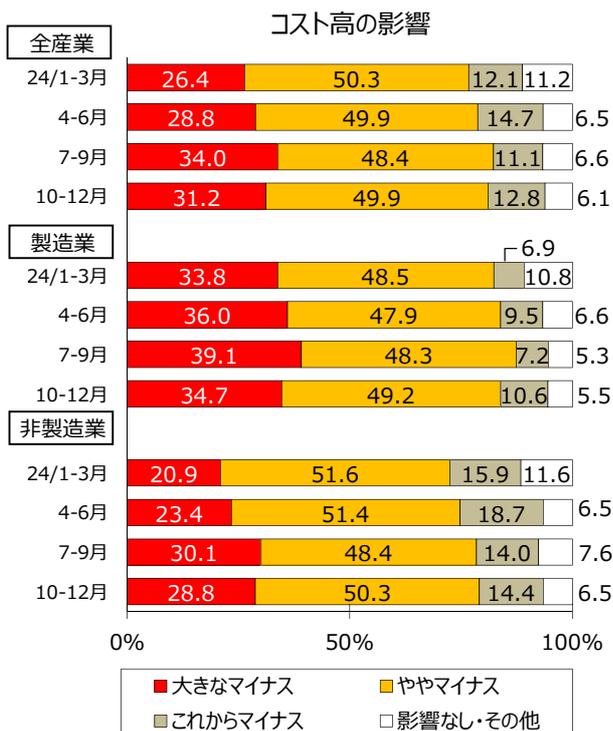
現在マイナスの影響があるとする割合は、製造業では83.9%となり前回(87.4%)よりも低下したが、非製造業は79.1%で、前回(78.5%)よりも若干ながら上昇した。ただし、「大きなマ

イナスの影響がある」とする回答割合については、製造業、非製造業ともに低下している。

(2) 価格転嫁の状況

2024年10-12月におけるコスト上昇分の取扱製品・サービスへの価格転嫁の状況についてきいたところ、「値上げをしており、コスト上昇分をおおむねカバーできている」が20.0%、「値上げをしているが、コスト上昇分をカバーするには不十分である」が65.2%、「値上げをしたいが、全くできていない」が9.0%、「コスト上昇は軽微であり、値上げを行う必要はない」他が5.9%となった。値上げをしている割合(「値上げしコストカバー」+「値上げしているが不十分」)は85.2%で2期連続の低下となっているほか、「値上げをしたいが、全くできていない」とする割合が再び上昇する動きもみられた。

なお、「値上げをしたいが、全くできていない」とする割合が高い詳細業種をみると、製造業では食料品・飲料(21.6%)が突出しており、非製造業では旅館・ホテル、飲食業(18.8%)が最も高くなっている。コメをはじめとする食料品の急激な値上がりの影響を受ける業種を中心として、価格転嫁が追いつかない企業が再び増加している様子がかうがえる。



以上

参考：業種別総括表

2024年10-12月

業種	時期 集計社数	業況判断 BSI		売上高 BSI		雇用判断 BSI		設備投資 実施率 (%)	
		前回比		前回比		前回比		前回比	
全産業	491	0.2	+4.4	1.2	+4.5	▲ 35.4	-2.1	28.4	-3.6
		▲ 0.8	-1.0	0.2	-1.0	▲ 32.6	+2.8	21.3	-7.1
製造業	199	5.6	+10.0	8.0	+12.8	▲ 22.1	-4.3	34.5	-8.2
		6.0	+0.4	6.0	-2.0	▲ 20.6	+1.5	25.8	-8.7
食料品・飲料	37	0.0	-10.3	13.5	+5.8	▲ 18.9	-0.9	37.8	-25.4
		2.7	+2.7	5.4	-8.1	▲ 18.9	±0.0	21.6	-16.2
繊維・衣服	14	0.0	+14.3	▲ 14.3	-7.1	▲ 35.7	+7.2	46.2	+17.6
		▲ 14.3	-14.3	0.0	+14.3	▲ 14.3	+21.4	28.6	-17.6
木材・家具	11	9.1	+16.8	9.1	+9.1	▲ 36.4	-28.7	18.2	-12.6
		18.2	+9.1	9.1	±0.0	▲ 36.4	±0.0	18.2	±0.0
窯業・土石	9	▲ 55.6	-55.6	▲ 55.6	-55.6	0.0	±0.0	33.3	-11.1
		▲ 11.1	+44.5	0.0	+55.6	0.0	±0.0	11.1	-22.2
鉄鋼・金属	21	14.3	+29.3	23.9	+43.9	▲ 38.1	+1.9	23.8	-16.2
		19.1	+4.8	23.9	±0.0	▲ 38.1	±0.0	28.6	+4.8
電気機械	30	3.3	+34.0	13.3	+44.1	▲ 16.7	-20.6	50.0	-7.7
		10.0	+6.7	16.7	+3.4	▲ 10.0	+6.7	37.9	-12.1
一般機械	38	34.2	+18.3	21.0	+9.7	▲ 26.3	-10.4	26.3	+5.8
		13.1	-21.1	5.3	-15.7	▲ 31.5	-5.2	21.1	-5.2
輸送機械	10	▲ 60.0	-18.3	▲ 50.0	-8.3	▲ 10.0	+15.0	20.0	-30.0
		▲ 30.0	+30.0	▲ 40.0	+10.0	10.0	+20.0	10.0	-10.0
その他製造業	29	13.8	+17.1	17.8	+17.8	▲ 13.8	+6.2	39.3	-7.4
		10.4	-3.4	3.4	-14.4	▲ 20.7	-6.9	34.5	-4.8
非製造業	292	▲ 3.4	+0.6	▲ 3.4	-1.2	▲ 44.6	+0.2	24.3	+0.2
		▲ 5.5	-2.1	▲ 3.8	-0.4	▲ 40.7	+3.9	18.2	-6.1
建設業・ 不動産業	91	▲ 9.9	-2.7	▲ 12.1	+2.3	▲ 52.7	+2.7	17.6	-5.3
		▲ 12.4	-2.5	▲ 12.3	-0.2	▲ 49.4	+3.3	14.3	-3.3
運輸業	19	31.6	+11.6	31.6	-28.4	▲ 68.4	+4.9	47.4	+0.7
		21.1	-10.5	42.1	+10.5	▲ 68.4	±0.0	47.4	±0.0
卸売業	60	▲ 10.0	+2.9	▲ 1.7	+9.6	▲ 28.3	+5.6	16.7	+5.4
		▲ 13.3	-3.3	▲ 13.3	-11.6	▲ 26.6	+1.7	6.8	-9.9
小売業	50	▲ 2.0	-14.0	▲ 6.0	-12.0	▲ 38.0	-12.0	24.0	-6.0
		0.0	+2.0	0.0	+6.0	▲ 34.0	+4.0	16.0	-8.0
旅館・ホテル, 飲食業	16	6.2	+22.0	6.2	+6.2	▲ 37.5	+25.7	12.5	-3.3
		18.7	+12.5	31.2	+25.0	▲ 37.5	±0.0	6.3	-6.2
サービス業 ・その他	56	▲ 1.8	+4.3	▲ 3.6	-5.7	▲ 48.3	-4.3	39.3	+6.6
		▲ 7.2	-5.4	▲ 8.9	-5.3	▲ 39.3	+9.0	32.1	-7.2

上段…2024年10-12月、下段…2025年1-3月予想